

誰もが知りたい
ローザンヌ宣教シリーズ

No.61

霊の戦い

— その聖書的・包括的理解に関するナイロビ声明 —



Let
the Earth hear
His Voice

Lausanne
Occasional
Papers

No.61

Deliver us from Evil Consultation,

Nairobi, Kenya - August 2000

Lausanne Committee for World Evangelization

関西ミッション・リサーチ・センター

誰もが知りたい

ローザンヌ宣教シリーズ

No. 61

霊の戦い

—その聖書的・包括的理解に関するナイロビ声明—

(2000 年)

日本語版権は関西ミッション・リサーチセンターにあります。

目 次

序	6
I. 背景	8
1. 目的	8
2. 内容	9
3. 参加者	9
4. ローザンヌ誓約から	10
5. さらなる背景	10
II. 『我らを悪より救い出したまえ』	
協議会の声明	14
1. 導入	14
2. 発端	15
3. 共通の基盤	17
①神学的言明	17
②実践における霊の戦い	21
4. 注意事項	24
5. 意見に相違のある諸領域	26
6. 継続的研究を必要とする未研究領域	29
III. 協議会に提示された論文と会議の概略	32

IV. 補論：『霊の戦い』邦訳出版に際して…………… 35

関西ミッション・リサーチセンター (KMRC) 正木牧人

1. 本書の出所…………… 35
2. ナイロビ 2000 の資料は入手可能…………… 35
3. ローザンヌ宣教運動とワーキンググループ…………… 36
4. ローザンヌ世界宣教運動の貢献…………… 36
5. ローザンヌ運動のニュースレターから…………… 37
6. ローザンヌ運動のこれまでの取り組み…………… 39
7. 霊の戦い…………… 41
8. KMRC の歩みと本書の出版…………… 46

序

今回、関西ミッション・リサーチセンター (KMRC) から『靈の戦いーその聖書的・包括的理解に関するナイロビ声明』が、拙訳で出版されました。英語名は "Deliver us from Evil Consultation" ですが、「主の祈り」の一節の解説文書と受けとめられる可能性があるので、「名は体を表す」べきだと考え、KMRC の了解を得て邦訳小冊子全体のタイトルは『靈の戦いーその聖書的・包括的理解に関するナイロビ声明』とさせていただきます。

この小冊子は、「1. 背景、2. 『我らを悪より救い出したまえ』協議会の声明、3. 協議会に提示された論文と会議の概略、4. 補論：『靈の戦い』邦訳出版に際して」の四部で構成されています。

『靈の戦いーその聖書的・包括的理解に関するナイロビ声明』は、「『我らを悪より救い出したまえ』協議会の声明」が本体で、そのみですぐれた内容をもつものですが、声明を理解する助けとして、「背景」と「協議会に提示された論文と会議の概略」を声明の前後に加えました。さらに、KMRC の正木牧人先生が今回の出版に際して、「靈の戦いというテーマが、ローザンヌ運動の歴史の中でどのように扱われてきたのか」についての「補論」を執筆してくださり、この声明をキリスト教の「歴史・神学・宣教」の三次元で立体的に見つめる視点を提供してくださっています。

ナイロビ声明は「世界伝道と靈の戦いの関連性」について様々な捉え方がある中、全世界より 60 人の神学と実践の専門家が参集し、聖書的・歴史的・神学的・今日的・地域的・宣教的・戦略的な包括的理解が「①共通の基盤、②懸念される事柄、③意見に相違のある領域、④さらなる調査・研究を要する事柄」の四つの分野に見事に整理され、声明として出されたものです。

またこの声明は、特定の見方をもつ側につこうとして作成されたものではなく、論争をもって現われてきた主題に関し、福音主義的思索を広げることを意図して作成されたものです。

さて日本の福音派は 90 年代以降、このテーマで“乱気流に巻き込まれた飛行機”のように、誤解・混乱・亀裂を経験してきました。しかし今ようやく視界が開け、安心して“ソフト・ランディングできる滑走路”を見出したように思います。そのひとつが『霊の戦いに関する聖書的・包括的理解に関するナイロビ声明』です。この声明は、『霊の戦い』について賛成派も反対派も共に受け入れられる聖書的かつ包括的なガイドラインの基本を提示しています。そして、この声明が神の栄光のため「霊の戦い」に関する率直な議論、真剣な熟考、実際的な奉仕を刺激し、日本の福音派諸教会において、学び活用されることが期待されています。

出版に際し提供されました KMRC の子安敏夫先生、有木義岳先生、鍋谷堯爾先生、正木牧人先生等、多くの先生方のご協力に、また、快く出版資金の融資に応じてくださった私の所属団体である日本福音教会（JEC）に心より感謝申し上げます。

一宮基督教研究所：安黒務

[http://www.aguro.jp/
aguro@mth.biglobe.ne.jp](http://www.aguro.jp/aguro@mth.biglobe.ne.jp)